

期末評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 次年度への方策等
<p><b>【第1学年】</b></p> <p>○平仮名、片仮名、漢字は宿題を丁寧に確認し、称賛したり、苦手な部位を何度も練習させたりした。どの子も正しい整った字を書くことができるようになってきた。読書は週に1回の読書の時間と教室に読書コーナーを設置したので読書量を確保することができた。</p> <p>○体験的な学習と具体物を使った学習を取り入れ算数的な感覚を身に付けてきた。たし算とひき算は宿題とベーシックドリルとデジタルドリルを利用して定着を図った。</p> <p>○生活科を中心として体験活動と振り返り活動を繰り返し行ってきた。振り返りは、協働学習支援ツールを使ったり、文章で書いたりできるようになった。</p> <p>▽文章を書く、計算をすることは個人差が大きい。また時間内にできることを今後の目標としていきたい。</p> <p><b>【第2学年】</b></p> <p>○国語の教科書や詩の音読を課題に出して家庭と連携して継続を図ったことで、言葉の意味を知り、内容を理解することができた。</p> <p>○具体物を積極的に活用して学習を行うことで、量的感覚が身に付いてきた。</p> <p>▽九九の暗記や漢字の定着などに個人差が大きく見られる。</p> <p><b>【第3学年】</b></p> <p>○新出漢字の学習後、繰り返し復習することによりある程度の定着を図ることができた。</p> <p>○自分の考えを話すこと、友達の意見を聞くことについては、ルールを意識して行うことができた。</p>	<p>●ゆっくり丁寧に書くことから、2年生ではある程度のスピードで丁寧に書くことをめあてにして学習を進める。</p> <p>●学習の振り返りや日記で書く活動を引き続き取り入れる。ベーシックドリルで語彙を増やしたり、読書量を確保したりして語彙力を増やす。</p> <p>●生活科では引き続き体験学習と表現活動を繰り返し行い、子どもの思いや願いを実現させていく。総合的な学習の時間に繋げられるようにする。</p> <p>▼たし算、ひき算はすらすら答えが出てくるよう繰り返し練習が必要である。デジタルドリルを利用して計算を定着させる。</p> <p>▼促音、拗音、助詞が苦手な児童がいるので音読やプリント学習で定着できるようにする。</p> <p>●音読を毎日課題に出すことを継続する。語彙を増やす活動などを取り入れる。日記の指導を続け、書く力を付ける。</p> <p>●数量感覚を養えるよう、体験的活動を取り入れた学習を次年度も行う。</p> <p>▼九九や漢字は繰り返し暗記テストや漢字小テストなどを行い、前の学年の内容も確認していく。授業や家庭学習でデジタルドリルの課題を出す。</p> <p>●新出漢字の反復練習や日記帳等での漢字の活用を促すなどの手立てを年間通して行う。</p> <p>▼話し方、聞き方のルールを確認し意識しながら活動できるように指導していく。</p> <p>▼書くことに対するの抵抗感を少なくしていく。漢</p>

▽ルール等を最後まで意識することが難しく気持ち  
がちがそれたり、黙ってしまったりとすることが  
まだある。個人差も大きい。

▽文の構成を読み取ること（始め、中、終わり）は  
定着してきているが、構成を意識して文章を書  
くことについては課題がある。

○数量感覚をつかむため具体物を使用した学習を  
取り入れた。数量感覚が育ってきた。

▽大きな数や足し算、ひき算、かけ算の筆算を正  
しく計算することが難しい。

#### 【第4学年】

○算数の既習事項の定着のため、デジタルドリル  
や復習プリントに繰り返し取り組んだことで、  
わり算の筆算など解き方が決まっている問題の  
計算力は定着してきた。

○国語では漢字の定着のため、作文の課題に取り  
組ませ、既習の漢字を使って文章を作成する習  
慣が身に付いた。

▽算数の既習の文章問題では柔軟な思考が難しく  
定着しきれていない児童が複数いた。

▽作文で自分の考えは表現できるが、理由を付け  
たり、分かりやすく表現したりすることが得意  
ではない児童が多い。

#### 【第5学年】

○意識して友達の話聞く場面を多く取り入れた  
ことで、話を聞こうとする姿勢が身に付いてき  
た。

○朝の時間や国語の時間を活用し、ミニ作文に継  
続的に取り組んだことで、苦手意識をもつ児童  
が減った。

○新しい問題を解く際に、既習事項を生かして、  
考える習慣が身に付いてきた。

▽算数の小数や分数の計算、国語の書くことにお  
いては、定着度の個人差が大きい。

#### 【第6学年】

○課題であった表現について、発言の機会を意図  
的に設定したことで、挙手や自分の考えを発表  
することに抵抗感のある児童が少なくなった。

字作文や日記などに取り組む。

●具体物、半具体物を使った学習を計画的に行い、  
教材を準備しておく。個人差が大きい部分につい  
ては活用の仕方を工夫する。また、単位の表など  
を用意し学習内容の定着、単位を正しく書くこと  
ができるようにしていく。

▼正確に計算ができるように引き続き、ベーシッ  
クタイム、普段の学習、宿題等で定着を図る。

●引き続きデジタルドリルや復習プリントを繰り  
返し取り組ませ、より既習事項の定着を図る。

●引き続き作文の課題に取り組ませ、既習の漢字を  
誤りなく使う習慣を付けさせる。

▼どのような問題が出題されても対応できるよう  
に文章問題の復習も多く取り入れ、既習事項の定  
着を図る。

▼詳しく理由を付ける習慣と分かりやすい文章を  
書く力を身に付けるために、繰り返し作文を書く  
練習を行い、文章を書くことへの苦手意識を緩和  
させていく。

●今後も意識して話を聞く場面を取り入れ、友達  
の話聞くことで、学習の広まりや深まりが感じら  
れるようにする。

●継続して行うことで、文字数を増やすことや要約  
をすることなど、学年に必要な技能を伸ばすため  
の取組を実施していく。

●授業内や宿題等でデジタルドリルを活用し、学習  
内容の定着を図る。

●区内中学校へ進学する児童は、新宿区学力定着度  
調査の結果が引き継がれる。進学先においても、

また、教師対児童だけでなく児童同士の交流や意見交換も活発になったことで、課題に対して粘り強く考えることができるようになった。

▽自分の考えを表現することについて、言いたいことを発言することはできるが、理路整然とした文章にすることは難しい児童が多い。

▽算数では既習の単元について、時間が経過することでやり方が分からなくなってしまう児童が見られる。特に、図形、割合など児童の苦手意識の強い単元は、繰り返し課題に取り組む必要がある。

自分の課題と向き合えるように声をかける。

▼中学校進学に向け、自分の考えに合う言葉選びができるよう、教科書の資料や辞書などを用いて適切な言葉を探し使うことを指導する。新宿区学力定着度調査の結果を踏まえ、プリント学習等の個別最適化された課題に取り組ませる。

▼習得が不十分な項目については、授業内やベシックタイム、宿題などでデジタルドリルを活用して、重点的に指導していく必要がある。